

## アクティビティ「実は毎日の生活とつながっている！」

### ■ このアクティビティのねらい

子どもの権利が自分の日常生活と関係していることに気づきます。

身近なものから、そうでないものまで、多くの子どもの権利がすべての子どもにあることを知ります。

個々の子どもの権利について、特に関わりの深い場面や状況を考え、具体的にイメージすることを試みます。

### ■ おすすめの授業科目：（小・中）総合、学級活動、社会 （高）探求、LHR

### ■ 所要時間：45分

### ■ 準備するもの：

- 先生・ファシリテーターのタブレットやパソコンの画面をプロジェクターにつないでください。  
生徒や参加者も各自のタブレットやパソコンを手元に準備します。
- 開始前に、グループワークがしやすいよう、1グループ4・5名のグループ分けや机の移動などを行ってください。
- ワークシート：タブレットやパソコン上で書き込むことができます。紙で記入する場合は、人数分印刷し、配布してください。
- 子どもの権利条約 条文一覧：タブレットやパソコン上で見るすることができます。  
紙で確認する場合は、人数分印刷し、配布してください。
- 授業やワークショップ後、参加者にアンケートを行う場合は、事後アンケートもご準備ください。

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声かけの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
<b>【はじめに】 (3分)</b> スライド1～2 タブレットやパソコンで全員がページにアクセスします。 画面上の「アクティビティ」タブのスライドを使用し、アクティビティの概要・ねらい、「今日の約束」、画面下のワークシートについて説明します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スライド1 みなさんにとって、人権や「子どもの権利」は身近なものですか？ 今日は、「実は毎日の生活とつながっている！」というアクティビティを通じて、子どもの権利と自分たちの生活のつながりについて考えていきましょう。</li> <li>●スライド2 アクティビティを始める前に、みなさん一人ひとりが安心して参加できるように、「今日この場での約束」を確認したいと思います。 (スライドの内容を読む)</li> <li>●今日のアクティビティでは、「ワークシート」を使用します。画面を少しスクロールし、「ワークシート」をそれぞれのパソコンにダウンロードし、書き込めるよう準備してください。 (紙のワークシートを使用する場合は配布する)</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>●このアクティビティの目的は、子どもの権利が自分たちの日常生活と関係していること、また今の自分に身近なものからそうでないものまで、自分たちにはさまざまな権利があることに気づくことです。</li> <li>●「今日の約束」は、セーブ・ザ・チルドレンからの提案です。学級などで話し合って決めた約束ごとなどがあれば、そちらを応用することもできます。</li> <li>●「ワークシート」は、タブレットやパソコン上で書き込むことができます。紙で記入する場合は、人数分印刷し、配布してください。</li> </ul>	

<p><b>【今日、自宅（住んでいるところ）を出てから、今までにしたことを個人でワークシートに記入する】</b>  <b>（5分）</b>          スライド3          ワークシートを用いて個人ワークを行います。</p>	<p>●スライド3          まずは、個人で考えてみます。それぞれダウンロードした（または配布した）ワークシートの一番上の欄に「今日、自宅（住んでいるところ）を出てから、今までにしたこと」を思い出し、できるだけ具体的に書いてみてください。          例えば、「保健室で休んだ」、「授業で実験をした」、「お昼ご飯を食べた」などです。</p> <p>ここで書いたことは、このあとのグループワークでメンバーに共有します。他の人に話してもよいことだけ書きましょう。もし特に思いつかなければ、「これからしたいこと」でも問題ありません。</p>	個人	<p>●自分が行ったことを入り口として、子どもの権利について考える最初のステップです。</p> <p>●「学校に行った」などではなく、より具体的な事柄を書いてみるよう促してください。書きたいことや人と共有してもよいことが思い浮かばないという場合もあるかもしれませんが、その場合は、実際にしたことでもかまいません。先生・ファシリテーターから全体に向けて、「今後の予定や、やりたいと思っていることでもいいですよ」といった声かけをしたり、どうしても出ない場合は、いくつかの案を提示して、その中から「やりたいと思うこと」を選ぶ形でよいと思います。</p>	子どもの権利と自分の生活とのつながりについて、自分なりの考えを出せているか
<p><b>【ワークシートに書いた内容と関係のありそうな「子どもの権利」を探す】</b>  <b>（7分）</b>          スライド4          自分が実際に行ったことと子どもの権利のつながりについて考えます。</p>	<p>●スライド4          では、今ワークシートに書いた内容と関係のありそうな「子どもの権利」を探してみましよう。</p> <p>画面の上にある、「子どもの権利条約 条文一覧」をタップしてみてください（紙の条文一覧を配布している場合は、紙面上で確認する）。</p> <p>たくさんの子どもの権利がありますね。今、自分が書いたことと「関係がありそう」だと思う権利をワークシートの右側に書いてみてください。できれば、そう思った理由も書いてみましょう。</p> <p>1つだけの「正解」があるものではないので、どんな答えでも大丈夫です。「何となく関係していそう」といったイメージでよいので、それぞれ思ったこと、感じたことなど、自分の考えを書いてみましょう。</p>	個人	<p>●「関係のありそうな権利」を探す過程で、さまざまな子どもの権利があることを知り、権利について具体的なイメージを膨らませることがねらいです。個々の条文（権利）について正確に理解することは、ここでは想定していません。1つの行動について1つの「正解」がある訳ではなく、複数の権利が関わっている可能性もあります。</p> <p>●42条から選ぶことが難しい場合は、「今日はX条～X条の中で選んでみましょう」などと伝え、子どもの権利の条文を読む範囲を絞ってもよいかもしれません。</p> <p>●先生・ファシリテーターから、「たとえば先生は、▲▲しました。これって■ ■の権利と関わりがあるかもしれませんね」など、考えるアイデアを提供してもよいかと思えます。参加者の進み具合を見て、適宜例などを挙げてください。</p> <p>例)          保健室に行った⇒24条          部活動に参加した⇒31条          宿題をした⇒28条、29条          図書館へ行って本を借りた⇒17</p>	子どもの権利と自分の生活とのつながりについて、自分なりの考えを出せているか

<p><b>【ワークシートに書いたことをグループで共有する】</b>  <b>(10分)</b>  <b>スライド5</b>          これまで個人で考えてきたことを、グループメンバーに共有します。</p>	<p>●スライド5          それぞれ、「自分がしたこと」と「子どもの権利」について、どのようなつながりを感じたり、考えたりしたでしょうか？          グループ内で、今ワークシートに書いたことを共有してみましょう。          グループの中で何回も出てくる権利はありますか？          グループのメンバーと話し、自分だけでは気づけなかったけれど、自分の生活と「関係のありそうな権利」も考えてみましょう。もし新たに「関係のありそうな権利」が見つかった場合、それらをワークシートに書いておきましょう。</p>	<p>グループ</p>	<p>条・・・など</p> <p>●他の人の意見を聴く中で、いろいろな日常の場面を想像しながら子どもの権利とのつながりに気づくことがねらいです。</p> <p>●各グループの共有が一巡したあと、時間がある場合は、「他のグループでどのような権利が出たか、聞いてみましょう」などと投げかけ、全体で共有する時間を持ってもらいたいと思います。</p>	<p>子どもの権利と自分の生活とのつながりについて、自分なりの理解や考えを表現しているか          (意見共有、発表)</p>
<p><b>【子どもの権利の解説】</b>  <b>(5分)</b>          スライド6～9          画面上部の「まとめ」の内容をもとに、子どもの権利について解説を行います。</p>	<p>●スライド6          ここまでのステップで、毎日のおみなさんの生活と子どもの権利がさまざまな形でつながっていることがみえてきたと思います。ここで少し、子どもの権利の成り立ちについて一緒に見ていきましょう。</p> <p>●スライド7          そもそも、子どもの権利はどのようにして生まれたのでしょうか？          歴史をさかのぼってみると、今から100年以上前に第一次世界大戦が起き、子どもを含む多くの一般市民の命がうばわれたり、戦争の後にも貧困に苦しんだりしました。その反省をふまえて、「子どもに敵・味方はない。すべての子どもを守る責任が大人たちにはある」という考えから、1924年、子どもの保護などについて定めた「ジュネーブ子どもの権利宣言」が国際連盟で採択されました。</p> <p>その後、第二次世界大戦が起きます。1945年まで続いたこの戦争では、特定の信仰を持つ人たちや障害のある人たち、LGBTQなど性的少数派（マイノリティ）の人たち、異なる言語・文化の人たち、戦争に反対するなど当時の</p>	<p>一斉</p>	<p>●子どもの権利の成り立ちについて触れ、これまでのステップで「自分（個人）の生活」と権利について考えてきた視点を、より広い社会や、世界の「人権」の視点に広げます。</p> <p>●イギリスに生まれたエグラタイン・ジェブは、第一次世界大戦後、戦争で家を失ったり飢えたりする人々の惨状を目の当たりにし、すべての子どもは飢えや苦しみから守られるべきだという意識を広めるため、1919年にセーブ・ザ・チルドレンを設立しました。1922年～1923年にかけて、ジェブは多くの意見を取り入れながら「子どもの憲章」の草案を作ります。1924年には「ジュネーブ子どもの権利宣言」が国際連盟でも採択されます。この宣言は、その後1959年に国連で採択される「子どもの権利宣言」に受け継がれます。そして1978年にポーランドが「子どもの権利条約」の草案を提出し、1989年、国連で今の「子どもの権利条約」が定められ、世界中の国々が子どもを権利の主体として、子どもたちを守る</p>	

	<p>政府と異なる考えを持った人たちが、各地で非常に多く、組織的に殺されました。</p> <p>この戦争の時までは、多くの場合「人びとは国ごとに守られるべき」と考えられていました。けれども、戦争や虐殺の反省を受けて、どの国の誰かに関係なく、どこにいても人は守らなければならない、「国際的な『平和』と人としての権利である『人権』は切りはなせない」という考えが広がりました。</p> <p>そして、世界の人びとは「国境をこえて人権を守る」という決意をし、1948年12月10日に「世界人権宣言」が国連で採択されました。</p> <p>●スライド 8</p> <p>子どもの権利は、1924年に採択された「ジュネーブ子どもの権利宣言」、そして1948年に採択された「世界人権宣言」を子どもに特化して発展させたもので、国際的な合意として、「子どもの権利条約」でさだめられています。</p> <p>1989年に国連で採択され、1994年に日本政府も批准、つまり「日本、そして世界の子どもたちの権利を守ります」と約束しています。</p> <p>子どもの権利条約では、子どもの権利は「すべての子どもに生まれながらにある」ということが確認されています。</p> <p>「生まれながらにある」というのは、子どもであれば「誰であっても、どこにいても、どんな状況でも」子どもの権利があるということです。「何かを証明したり、義務や責任をはたしたりしなくても」子どもの権利はあり、「大変な状況の時だけでなく、日々の生活の中でも」権利は守られなければなりません。</p> <p>●スライド 9</p> <p>もし、たまたま自分が権利を守ってもらえない環境に生まれたり、</p>		<p>ために努力することに合意しました。ジェブの草案から67年の月日を経て、今日の子どもの権利条約ができました。採択までにジェブらとともに子どもの救援活動に取り組んだ人々の中には、第31代アメリカ合衆国大統領(1929-33)のハーバート・フーバーや、ポーランド出身の小児科医で孤児院の院長でもあったヤヌシュ・コルチャックがいます。</p> <p>なお、2023年現在、子どもの権利条約は、196の国と地域で批准されており、締約国となっていない国はアメリカのみです。</p> <p>●これまでのステップで見してきた「子どもの権利条約」は、ある一部の人が「大切だ」と言っているものではなく、国際的な条約で定められているものであり、その条約に批准した日本は国として守る義務があることを説明してください。</p> <p>また、子どもの権利は、すべての子どもに生まれながらにあるもので、「誰であっても、どこにいても、どんな状況でも」あるということ、「何かを証明したり、義務や責任をはたしたりしなくても」、「大変な状況の時だけでなく、日々の生活の中でも」権利は守られなければならないものであることを強調してください。</p>
--	--	--	---

	<p>環境が変わったりしたら、権利が守られなくても仕方のないことなのでしょう。いいえ、そんなことはありません。どこに生まれ育っても、誰であっても、また、生活環境が変わったりしても、人として大切にされることは変わりません。その「よりどころ」が、人権であり、国際条約でさだめられた「子どもの権利」です。</p> <p>みなさんの今の日常生活にとって身近な権利はもちろん、今はあまり身近ではないと思う権利もすべて、子どものみなさん一人ひとりにあるのです。</p>			
<p><b>【「これまでのステップでは出てこなかったけれど大切だと感じる子どもの権利」について、グループで話し合う】</b>  <b>(10分)</b>          スライド 10          今はあまり身近に感じられない権利についても考えや、想像を膨らませます。</p>	<p>●スライド 10          それでは最後にもう一つグループワークを行います。これまでのステップでは出てこなかったけれど大切だと感じる子どもの権利」について、グループで話し合ってみましょう。「その権利が自分にとって大切になるのはどんなときか、想像しながら話してみましよう。</p> <p>「子どもの権利条約 条文一覧」見ながら一度個人で考え、考えたことをワークシートに書いてみましょう。そのあと、自分の考えをグループで共有したり、どうしてそのように思ったか、話し合ってみましよう。</p>	<p>グループ</p>	<p>●このステップでは、今はあまり身近に感じられない権利について、それが大切になると思う場面を想像し、自分に引き寄せて考えることがねらいです。身近な権利でなければ自分に関係がない、いらないうということではなく、どの権利もすべての子どもに等しくあることを意識することが重要です。</p> <p>●個人で考える時間を3分ほど設けてから、グループで話し合うことをおすすめします。</p> <p>●個々の権利の内容について、子どもたちから質問が出る可能性があります。先生やファシリテーターが各条文の解説や背景説明を行うというよりは、まず、現時点での子どもたちの理解に任せて、想像をふくらませてみるように促してみてください。</p>	<p>子どもの権利と自分の生活とのつながりについて、自分なりの理解や考えを持ち、それらを表現しているか（意見共有、発表）</p>
<p><b>【全体共有、まとめ、振り返り】</b>  <b>(5分)</b>          スライド 11          最後に今日のアクティビティのまとめや振り返りを全体・個人で行います。</p>	<p>●スライド 11          それぞれのグループでは、どのような意見が出たでしょうか？全員で共有してみましよう。</p> <p>今日は毎日の生活とつながりのありそうな子どもの権利、そして今は身近ではないと思うが大切だと感じる子どもの権利について考えてみました。</p> <p>今日の授業を通して、気づいたこ</p>	<p>一斉個人</p>	<p>●全体共有は、授業全体を通して感想などでもよいかもしれません。グループで話し合うだけでなく、各自が気づいたことや感じたことをワークシートに書くことで、自分ごとだと感じられたり、学びが深まったりすることも期待できます。</p> <p>●アクティビティ実施後、今日の感想（学んだこと、考えたこと、わかりにくかった点など）を聞くアンケ</p>	<p>子どもの権利について新たな学びを得たり、知識を得たりすることができたか          （アンケートを取得する場合はそれらのコメント）</p>

	<p>とや印象に残ったことがあったら、ワークシートの「メモ」欄に書き留めておきましょう。</p> <p>今日気づいたように、自分たちの生活と、子どもの権利や人権は実はつながっています。これらのつながりについて、これから意識して生活してみてください。</p>		<p>ートなどを実施し、参加者がどのようなことを感じたか確認することもできます。</p>	
--	--	--	--	--